

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

—

2. 学校概要

学校名 北海道登別明日中等教育学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒059-0016

北海道登別市片倉町5丁目18-2

E-mail : akebi@hokkaido-c.ed.jp

Website : http://www.akebi.hokkaido-c.ed.jp/

児童生徒数：男子 165 名 女子 294 名 合計 459 名

児童・生徒の年齢 12 歳～ 18 歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
 持続発展教育 (ESD) 国際理解 世界遺産 平和・人権 環境 気候変動
 生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 そのほか (地域調査)
 そのほか ()

どのように活動を学校のプログラムに盛り込んだか記載願います。

- これまで国際理解教育、外国語教育として取り組んできたものを ESD との関連を意識して実施した。

今までの活動の中で、教育の質の向上に効果のあった活動がありましたら、記載願います。

- 5年次、海外見学旅行における姉妹校の高校生との文化交流は異文化理解の深化、その後の生徒の学習意欲向上につながった。

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など）
- CD-ROM
- 写真
- その他（本校 HP に活動の概略が掲載）

以下につきましては、該当する取組を実施した場合のみ
記載をお願いします。

- 実施テーマにおける教材の工夫や授業手法における工夫。
 - ALT と連携して授業を行うことで、様々な教科、科目で異文化理解を取り入れた授業展開が可能となる。
 - 小学校との連携を進めて、異年齢交流を通じた ESD を展開することで、生徒の人間的な成長を促すことができる。
 - 海外見学旅行等、学校行事の場面に、国際交流や異文化理解の場面を取り入れることで、豊かな体験をともなった活動を展開できる。

- 実施テーマに関連した研究旅行の実施。
 - 該当なし

- 他国の学校との交流や相互協力の実施。(交流した国、学校名の記載もお願いします。特に相手校が ASP ネットワークに参加している場合は、その旨も記載願います。)
 - アメリカ合衆国・シアトル・ボッセルハイスクール

- 国連やユネスコが取り組む国際的な記念日、国際年、国際的な 10 年を記念する取組の実施。(国際母語の日、国際天文年、識字の 10 年など)
 - 寺子屋運動 (書き損じハガキの回収)